A-1 ☆自立活動の指導のための個別の指導計画（例）～A４・２枚型～

氏名　　**障がい名等**　　**作成日**

1　個々の実態を的確に把握する

①　障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

情報として整理しなくて構いません。
思いつく形で入れていきましょう。

②　収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

情報を６区分で整理します。どう整理したらよいか悩む場合は第Ⅲ章－４（３）②－２『自立活動の指導のための早見表（例示）』（198ｐ）をご覧ください。

収集した情報を○○年後の姿の観点から整理

児童生徒の生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れた整理です。例えば、「○○年後の姿」をイメージしたり、卒業までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定したりして整理します。

2　実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

【課題同士の関連】

収集した情報収集から、課題同士の関連等を考えます。関連図を視覚化したい場合は、第Ⅲ章―４(3)②－１『実態把握情報収集シート』を使って、関連する課題同士を線でつなぐと、関連が見やすくなります。

【指導すべき課題】

課題同士の関連を考えることで、課題となる行動の背景、原因が予測できます。それが、障がいによる困難さであり、改善・克服できる課題であれば、指導すべき課題となります。

3　今、指導すべき目標として

指導すべき課題から、本人の実態及び自立活動の指導の場面によって、今、指導すべき目標を決定していきます。
＊個別の教育支援計画との一貫性も確認します。

何の項目が関連しているか、チェックしていきます。

４　指導目標を達成させるための必要な項目選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

指導内容との関連を図り、線でつなぎます。

指導内容			
指導場面	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導
評価			
【次年度に向けた引き継ぎ】			

場合によっては、指導内容が１つや２つの時もあります。

指導場面を確認し、○で囲みます。

学校や学級等によって、この欄で狭い時、書きにくい時には、別紙にて作成してもいいです。評価の時期（学期、前期・後期、年１回等）も、学校の現状によって決めてください。

今年度の指導目標はどうだったか、また、指導すべき課題についてもう一度確認することで、次年度以降の継続につながっていきます。